



東郷池を眺めながら歩く参加者 7日、湯梨浜町藤津

新緑の県中部 1174人歩く

「第15回SUN-IN未来ウォーク」(NPO法人未来、新日本海新聞社など主催)の最終日は7日、倉吉市の倉吉パークスタジアムを主会場に3時から30分の五つのコースで繰り広げられた。鳥取県内外や韓国から集った1174人が爽やかな風に包まれた東郷池や天神川、日本遺産に認定された三朝温泉など、新緑まぶしい伯耆路を満喫した。



山陰八景の一つである東郷池を巡るコースは、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」の認定コースでもあり、健脚家217人が30分に挑んだ。

参加者らは東郷池が一望できる出雲山展望台で足を止めて写真撮影をしたり、中国庭園燕趙園前では梅干しやしじみ汁のもてなしを受けするなどウォーキングを楽しんでいた。

大津市朝日が丘の会社員、中根正之さん(59)は前日の里見八犬

「天気がいいと気持ちがいいね。コースもよくて景色も十分楽しめた」と喜んでいたら、大会は2日間で計2593人が参加した。

荻原健司さん
ノルディック

「未来ウォークのゲストウォーカーで、スキーノルディック複合で二つの金メダルを獲得した荻原健司さんが、倉吉未来中心アトリウムで両手にポール



ノルディック・ウォークの良さを解説する荻原さん(右) 7日、倉吉未来中心アトリウム

を持って歩くノルディック・ウォークを参加者らに指導した。

荻原さんは、全日本ノルディック・ウォーク連盟の木村健二理事長とステージに立ち、「通常のウォーキングは下半身が中心だが、ノルディック・ウォークはほぼ全身の筋肉や骨格を使う。エネルギー消費量が増え、背筋が伸びて姿勢がよくな

り若返った気分になる」と実技を交えながらメリットを話した。

この後、参加者らは次々にスタートし、荻原さんと一緒にコースを歩いた。

会場にはノルディック・ウォークのポールを無料で貸し出すコーナーがあり、希望者がポールを借りて元気に歩いていた。

お礼

「第15回SUN-IN未来ウォーク」は6、7の両日、全国からのウォーカーや親子連れら延べ2593人、地元ボランティア延べ250人が参加して、盛況のうちに終了いたしました。

大会開催に当たり、ご協力いただきました各自治体、団体・企業の皆様に心より感謝いたします。

また、大会の円滑な運営にご協力いただいた各団体、ボランティア、会場周辺や沿道の住民の皆さまにお礼を申し上げます。

主催 NPO法人未来、日本ウォーキング協会、全日本ノルディック・ウォーク連盟鳥取支部、鳥取県中部医師会、新日本海新聞社